

〈Ⅶ 社会的活動〉

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組み】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定か。

「知識基盤社会」たる 21 世紀における社会的活動の意義は、主として二つある。その一つは社会貢献であり、もう一つは教育・研究の拡張である。生涯学習、地域社会との連携、産官学連携に係るプログラムを通じて社会的活動は、深められてゆくと考える。

本学は、人口約 43 万人を擁する東播磨地域二市二町（加古川市、高砂市、稲美町、播磨町）を基盤とし、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成している短期大学である。

平成 18 年 3 月には加古川市及び加古川商工会議所と産官学連携協定を締結し、様々な連携事業を推進している。また、稲美町とも平成 18 年に連携協定を締結するなど、本学と周辺地域との関係は深まりつつある。

こうした地域との産官学連携事業をスムーズに推進するため、平成 21 年度からの新設部署「学長室」と本学の附置機関である附属総合科学研究所が中心となり、より一層の積極的な社会的活動を行っていく予定である。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているか。

産業構造の変化や少子高齢社会等により、現代社会は常に変化している。また、こういった社会変化は、地域住民にも影響を与えている。このような状況においては、地域住民にとって課題発見能力、コミュニケーション能力、柔軟な思考力、豊かな人間性等を含む総合的な「知」の研鑽がますます必要となる。

このような地域社会のニーズに対応するため、短期大学は、「公開講座」、「科目等履修生制度」、「社会人入試」を制度化し、そのニーズに応えている。

今後は、資格取得講座等の開設も検討し、よりニーズの高い生涯学習の拠点大学として地域に貢献していく。

(3) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況について。

地域貢献の一環として、本学の有する知的資源・教育資源を地域に公開することを目的とした公開講座を開催している。平成 22 年度は、以下の講座を開催し、学生への教育のみならず、「地域に根ざした大学」として責務を果たしている。

兵庫大学公開講座

～やさしい仏教講座～

回	日程	時間	内容・講師	参加者数
第1回	11月20日(土)	10:30~12:00	妙好人をたずねて 講師：本多 彩 (社会福祉学科講師)	67
第2回	11月27日(土)	10:30~12:00	現代に生きるお寺 講師：長岡 岳澄 (中央仏教学院講師)	66
第3回	12月4日(土)	10:30~12:00	仏教と無縁所… 日本の産業・文化の原点と仏教 講師：西脇 修 (健康システム学科教授)	73
第4回	12月11日(土)	10:30~12:00	金子 みすゞさんと仏教 講師：本多 至成 (恵光寺住職)	76
第5回	12月18日(土)	10:30~12:00	落語の中の日本仏教 講師：釈 徹宗 (相愛大学教授)	78
延べ参加者数				360

～やさしい文学講座～

回	日程	時間	内容・講師	参加者数
第1回	2月12日(土)	14:00~15:30	やさしい和歌文学① ～平安時代の女流たち～ 講師：安井 重雄 (保育科教授)	155
第2回	2月19日(土)	14:00~15:30	やさしい平家物語～武者たちの最期～ 講師：浜畑 圭吾 (龍谷大学兼任講師)	175
第3回	2月26日(土)	14:00~15:30	やさしい小説鑑賞～芥川文学の魅力～ 講師：野田 直恵 (兵庫大学兼任講師)	152
第4回	3月5日(土)	14:00~15:30	やさしい和歌文学②～日常の中の和歌～ 講師：安井 重雄 (保育科教授)	144
延べ参加者数				626

(4) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動内容について。

① 地域との協定による協力関係

- ・加古川市・加古川商工会議所との連携協定

平成18年度に加古川市、加古川商工会議所、本学とで連携協力に関する協定を締結した。連携内容は、人的・知的資源の交流、協働による調査研究及び事業の実施、市、商工会議所又は大学の主催事業に対する相互の協力・支援等である。協定に基づき産官学連携協議会（加古川地域政策研究所）が結成され、地域との関係がより一層強化された。

産官学連携協議会主催事業として、平成 20 年度には、「地域 SNS の魅力、今後の可能性について」（参加者数 20 名）を開催した。

・稲美町との連携協定

平成 18 年度に本学の所在地と隣接する稲美町と、連携協力に関する協定を締結した。連携協力事項は、町と大学の人的・知的資源の交流、町と大学の協働による調査研究及び事業の実施、町主催または大学主催事業に対する相互の協力・支援等である。平成 22 年度は、健康科学部栄養マネジメント学科による「地域高齢者の栄養管理と実践力のある食育指導者の育成」、生涯福祉学部社会福祉学科による「稲美町における高齢者の『暮らし』を維持するための調査研究」を行った。

・シーズ加古川との連携

東播磨生活創造センター「かこむ」の開設に伴い、特定非営利活動法人シーズ加古川と業務委託契約を締結し、本学が当該施設での公開講座業務を請け負うことになった。また、平成 20 年度においては、講座の開設時間を含む毎週木曜日 18:00～21:00 の間、本学から職員が出張し、関連業務を担当した。平成 21 年度からは「東播磨市民活動カルテづくりプロジェクト」に本学学生を派遣している。

・加古川観光協会との連携

加古川観光協会と連携して「かつめし」プロジェクトを実施し、本学美術デザイン学科の学生による「かつめし」のロゴ及びキャラクターの作成を行った。

② 加古川市職員政策研究会

加古川市職員と本学教員とで構成され、平成 7 年以来加古川市からの受託研究を実施している組織である。平成 20 年度は、研究課題を「ウェルネスな地域環境の創造」とし、研究を推進した。

③ 地域との懇談会

地域商工会議所等の経済団体や企業、病院、施設、幼稚園や保育園などの採用担当者と本学の教職員との情報交換会を毎年開催している。

④ 高大連携

須磨ノ浦女子高等学校、兵庫県立加古川北高等学校、兵庫県立神戸北高等学校と連携協定を結んでいる。詳細は【特記事項について】(1) に記述している。

【学生の社会的活動】

(1) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況について。

本学では、地域に根ざした大学として、また、学生の自主的活動の促進を図るために、各種ボランティアの募集及び仲介を積極的に行い、各方面からの要望に応じている（下表参照）。

最近では、近隣町内会主催の夏祭りの盛り上げや、市や県が企画するイベントのオープニングを飾るために、学内団体を派遣している。同イベントでは、演技を披露するなど、本学学生は多方面で活躍している。

ボランティア活動実績（年度比較、国内のみ）

年度	学生課が仲介した ボランティア派遣実績件数(件)	参加学生数(人)	前年度比較
20	23	130	66.7% (65人減)
21	51	419	322.0% (289人増)
22	39	274	65.4% (145人減)

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか。

本学の教育方針に掲げている人材育成には地域との関わりは不可欠であり、地域に役立つ専門家を育成することが本学の果たすべき地域貢献と考える。

地域によって育てられた若者が、地域を愛し、地域で生きがいをもって生活し、誇りをもって地域発展に尽くす、そのような人材の育成をめざしている。

また地域貢献に関する評価については、毎年優秀学生表彰制度でボランティア活動等において優れた功績をのこした者に対しても、学長から表彰状と共に副賞として奨学金（10万円程度）を授与している。

【国際交流・協力への取組み】

(1) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況について。

本学では、学生に国際的教育・文化交流を経験してもらうために、短期留学・長期留学に関する発行物や、海外ボランティア活動の募集パンフレットなどをまとめたコーナーを設置し、関心の高い学生に対して情報提供を行っている。また、兵庫県が主催する「大学洋上セミナーひょうご」（東南アジア諸国を中心とした各国との交流事業、隔年で実施）に平成20年度参加した。参加者には、参加費の一部を助成し、学生の学ぶ機会を提供するだけでなく、経済的支援も同時に行っている。

(2) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況について。

過去3ヶ年において海外教育機関との交流事業は実施していない。

(3) 過去3ヶ年（平成20年度～22年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況について。

教職員の留学・海外派遣はない。教職員の国際会議出席等の状況は、以下の通りである。

	期間	該当者	目的	出張先
20年度	H20.5.26～6.3	Michael H. FOX 准教授	学会参加	カナダ・モントリオール アメリカ・ミシガン
	H20.5.31～6.8	河村さと子准教授	音楽祭出演	ドイツ・バイエルン州
	H20.8.28～9.5	満田知美講師	取材	キューバ・カンクン、ハバナ
	H20.11.28～11.30	三浦摩美講師	学会参加	韓国・釜山
	H20.11.28～12.1	上原正和教授	学会参加	韓国・釜山
	H20.12.25～12.28	杣山貴要江准教授	学会参加	中華人民共和国・台湾
	H21.2.5～2.18	三浦摩美講師	視察	ドイツ・ボン、イギリス・ロンドン
H21.3.3～3.9	杣山貴要江准教授	調査	スウェーデン・ストックホルム	
21年度	H21.5.26～6.1	Michael H. FOX 准教授	学会参加	米国
	H21.10.15～10.19	上原正和教授	学会参加	韓国
	H22.2.4～2.7	Michael H. FOX 准教授	学会参加	香港
	H22.2.23～3.1	Michael H. FOX 准教授	学会参加	米国
	H22.2.23～3.8	杣山貴要江教授	調査	フィンランド
	H22.3.14～3.22	杣山貴要江教授	調査	米国
	H22.3.24～3.30	満田知美講師	取材	フランス
22年度	H22.5.26～6.2	Michael H. FOX 准教授	学会参加	米国
	H22.8.11～8.14	Michael H. FOX 准教授	年次大会参加	カナダ
	H22.8.18～8.25	満田知美講師	取材	トルコ
	H22.9.1～9.9	杣山貴要江教授	調査	フィンランド
	H22.9.4～9.10	徳永満理講師	研修	米国
	H22.9.6～9.11	柳楽節子教授	展示会参加	米国
	H23.3.1～3.5	M.H.FOX 准教授	学会参加	カナダ
	H23.3.8～3.16	杣山貴要江教授	調査	スウェーデン
	H23.3.12～3.19	三浦摩美准教授	調査	イタリア
	H23.3.26～3.31	三井圭子講師	講師	スリランカ
H23.3.27～3.31	満田知美講師	取材	台湾	

【特記事項】

(1) この《Ⅶ 社会活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会活動について努力していることがあるか。

① 高大連携

現在、須磨ノ浦女子高等学校、兵庫県立加古川北高等学校、兵庫県立神戸北高等学校と連携協定を結んでいる。高校への「出前授業」、大学内での「特別授業」、「授業聴講」、オープンキャンパス時の「体験授業」等を実施し、高校生の進路選択に寄与するとともに、大学での勉学に対する動機付けの機会ともなっている。系列高校である須磨ノ浦女子高等学校との連携は、高校及び大学での各々の在籍期間を連続した教育期間と捉えた高大一貫型の取り組みとなっている。

高大連携受入実績

高校名	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
須磨ノ浦女子高校(人)	170	207	180	156	167
兵庫県立加古川南高校(人)	4	7	2	—	—
兵庫県立加古川北高校(人)	—	14	3	4	2
兵庫県立神戸北高校(人)	—	—	—	—	—
計(人)	174	228	185	160	169

併設大学と合算。

領域 I

領域 II

領域 III

領域 IV

領域 V

領域 VI

領域 VII

領域 VIII

領域 IX

領域 X